

ジェンダー研究センター彙報<平成18年度>

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

職名は発令時による

平成18(2006)年度研究プロジェクト概要

年月日	テーマ	報告者、評者等
夜間セミナー「女性の人権尊重とジェンダー平等の推進—フィリピン及びアジア諸国の経験から—」 Enhancing Gender Equality and Women's Human Rights: Experiences in the Philippines and Selected Asian Countries		
平成18年5月10日	セミナー「フィリピンにおける女性運動とフェミニズムの研究—収斂と分化の分析—」 “Women's Movements in the Philippines and Feminist Scholarship: An Analysis of Convergence and Disunities”	キャロリン・ソブリチャ (Carolyn I. Sobritchea) (フィリピン大学女性学研究センター長、IGS 外国人客員教授) コメンテーター: 原ひろ子 (城西国際大学大学院客員教授)
平成18年5月17日	セミナー「フィリピンとアジア諸国におけるジェンダーに敏感な職業技術教育訓練の推進に果たす JICA フィリピンの役割」 “The Role of JICA Philippines in Promoting the Gender-Responsiveness of Technical and Vocational Education and Training in the Philippines and other Asian Countries”	キャロリン・ソブリチャ (Carolyn I. Sobritchea) (フィリピン大学女性学研究センター長、IGS 外国人客員教授) コメンテーター: 滝村卓司 (JICA)
平成18年5月24日	セミナー「アジアの HIV/AIDS 現象をめぐるフェミニズム視点からの検討」 “Feminist Interrogations of HIV/AIDS Phenomena in Asia”	キャロリン・ソブリチャ (Carolyn I. Sobritchea) (フィリピン大学女性学研究センター長、IGS 外国人客員教授) コメンテーター: 兵藤智佳 (早稲田大学客員講師)
平成18年5月31日	「ジェンダーの主流化—ジェンダーの主流化は、実際に女性の地位向上をもたらしたか?—」 “Gender-Mainstreaming: Has it Really Contributed to the Advancement of Women?”	キャロリン・ソブリチャ (Carolyn I. Sobritchea) (フィリピン大学女性学研究センター長、IGS 外国人客員教授) コメンテーター: 橋本ヒロ子 (十文字学園女子大学教授)
平成18年6月7日	「女性の地位向上への権利アプローチ—フィリピンの経験から—」 “Rights-Based Approaches to the Advancement of Women: The Philippine Experience”	キャロリン・ソブリチャ (Carolyn I. Sobritchea) (フィリピン大学女性学研究センター長、IGS 外国人客員教授) コメンテーター: 村松安子 (東京女子大学教授)
夜間セミナー「ジェンダーとテクノサイエンス」 Gender and the Politics of Technoscience		
平成18年10月3日	「ジェンダーとテクノサイエンスのポリティクス」 “Introduction: Gender and the Politics of Technoscience”	ジュディ・ワイスマン (Judy Wajcman) (オーストラリア国立大学社会科学部社会学部教授、IGS 外国人客員教授) コメンテーター: 村上陽一郎 (国際基督教大学教授)
平成18年10月10日	セミナー「社会によるテクノロジーの形成」 “The Social Shaping of Technology”	ジュディ・ワイスマン (Judy Wajcman) (オーストラリア国立大学社会科学部社会学部教授、IGS 外国人客員教授) コメンテーター: 林真理 (工学院大学助教授) 三村恭子 (本学大学院博士後期課程・COE 研究員)
平成18年10月17日	セミナー「テクノロジー、仕事、男らしさ」 “Technology, Work and Masculinity”	ジュディ・ワイスマン (Judy Wajcman) (オーストラリア国立大学社会科学部社会学部教授、IGS 外国人客員教授) コメンテーター: 小倉利丸 (富山大学教授) 水島希 (COE・PD 研究員)

夜間セミナー

平成18年10月24日	セミナー「コンピュータ文化—サイバースペースで生きる方法—」 “Computer Culture: Living in Cyberspace”	ジュディ・ワイスマン (Judy Wajcman) (オーストラリア国立大学社会科学部教授、IGS 外国人客員教授) コメンテーター：豊福 剛 (翻訳家) 千田麻理子 (本学大学院博士前期課程)
平成18年11月9日	セミナー「テクノフェミニズム—ワイヤレス世界の専門知とエージェンシー—」 “TechnoFeminism: Expertise and Agency in a Wireless World”	ジュディ・ワイスマン (Judy Wajcman) (オーストラリア国立大学社会科学部教授、IGS 外国人客員教授) コメンテーター：高橋さきの (翻訳家、IGS 研究協力員、COE 研究協力者)
夜間セミナー「ジェンダー・労働・政治」 Gender, Work and Politics		
平成19年1月25日	「イントロダクション—労働のフェミニスト理論」 “Introduction: Feminist Theories of Work”	ハイディ・ゴットフリート (Heidi Gottfried) (ウェイン州立大学労働社会学准教授、IGS 外国人客員教授) コメンテーター：足立真理子 (IGS 助教授)
平成19年2月2日	セミナー「政策、政治と労働—比較研究およびトランスナショナルな研究方法」 “Gender, Policy, Politics and Work: Feminist Comparative and Transnational Research”	ハイディ・ゴットフリート (Heidi Gottfried) (ウェイン州立大学労働社会学准教授、IGS 外国人客員教授) コメンテーター：堀内光子 (国際労働機関 (ILO))
平成19年2月8日	セミナー「労働・雇用関連施策とジェンダー (不) 平等」 “Labor Policies and Gender (In)equality at Work”	ハイディ・ゴットフリート (Heidi Gottfried) (ウェイン州立大学労働社会学准教授、IGS 外国人客員教授) コメンテーター：伊藤るり (IGS 教授)
平成19年2月15日	セミナー「経済的自立の確保へ—ジェンダーと非正規雇用に関する日米比較研究」 “Pathways to Economic Security: Gender and Nonstandard Employment in the United States and Japan”	ハイディ・ゴットフリート (Heidi Gottfried) (ウェイン州立大学労働社会学准教授、IGS 外国人客員教授) コメンテーター：大沢真理 (東京大学教授)

1. 人事関係

1) 運営委員会名簿 (括弧内は在任期間)

IGS長・教授	館 かおる (平成16年4月1日～ 平成19年3月31日)
文教育学部教授	宮尾 正樹 (同上)
理学部教授	増永 良文 (同上)
生活科学部教授	戒能 民江 (同上)
人間文化研究科教授	竹村 和子 (同上)
文教育学部教授	米田 俊彦 (同上)
理学部教授	真島 秀行 (同上)
生活科学部教授	杉田 孝夫 (同上)
IGS 教授	館 かおる (平成8年5月11日～)
IGS 教授	伊藤 るり (平成12年4月1日～ 平成19年3月31日)
IGS 助教授	足立真理子 (平成17年10月1日～)
IGS 専任講師	杉橋やよい (平成16年4月1日～ 平成18年10月31日)
IGS 専任講師	市井 礼奈 (平成18年12月1日～ 平成19年3月31日)

客員教授 (国内) ホーン 川嶋 瑤子
(スタンフォード大学「女性とジェンダー研究所」研究員)
(平成18年4月1日～
平成19年3月31日)

非常勤講師
柘植あづみ (明治学院大学教授) (同上)
小川真里子 (三重大大学教授) (同上)
澤田 佳世 (日本学術振興会特別研究員) (同上)
原 ひろ子 (城西国際大学大学院客員教授) (同上)

客員研究員
マーシャ・ヨネモト (コロラド大学ボルダー校准教授)
(平成18年4月1日～
平成19年3月31日)

研 究 員
キーヨン・シン (日本学術振興会外国人特別研究員)
(平成17年11月28日～
平成19年11月27日)

研究支援員 (科学研究費)
浅倉 寛子 (本学大学院博士後期課程)
(平成18年4月1日～
平成18年8月31日)

2) スタッフ名簿 (括弧内は在任期間)

センター長 (併)	館 かおる (平成12年4月1日～ 平成19年3月31日)
専任教員	館 かおる (平成8年5月11日～)
	伊藤 るり (平成12年4月1日～ 平成19年3月31日)
	足立真理子 (平成17年10月1日～)
専任講師	杉橋やよい (平成16年4月1日～ 平成18年10月31日)
	市井 礼奈 (平成18年12月1日～ 平成19年3月31日)
外国人客員教授	キャロリン・ソブリチャ (フィリピン大学女性学研究センター 長) (平成18年4月～ 平成18年6月)
	ジュディ・ワイスマン (オーストラリア国立大学社会科学研 究科社会学部教授) (平成18年9月～ 平成18年11月)
	ハイディ・ゴットフリート (ウエイン州立大学労働社会学准教授) (平成19年1月～ 平成19年3月)

磯山久美子 (東京女子大学他非常勤講師)
(平成18年4月1日～
平成19年3月31日)
落合 絵美 (本学大学院博士後期課程)
(平成18年9月1日～
平成19年3月31日)
研究協力員
朝倉 京子 (新潟県立看護大学助教授)
(平成18年4月10日～
平成19年3月31日)

大海 篤子 (武蔵大学他非常勤講師) (同上)
小山 直子 (本学 COE 客員研究員) (同上)

小門 穂 (科学技術文明研究所研究生) (同上)

小林富久子 (早稲田大学教授・同大学ジェンダー研
究所所長) (同上)

斉藤 正美 (富山大学非常勤講師) (同上)

	酒井 順子 (エセックス大学研究員)	(同上)
	佐藤 (佐久間) りか (本学 COE 研究協力者)	(同上)
	仙波由加里 (本学 COE 研究員)	(同上)
	田中 俊之 (武蔵大学他非常勤講師)	(同上)
	中山まき子 (同志社女子大学教授)	(同上)
	根村 直美 (日本大学助教授)	(同上)
	藤掛 洋子 (東京家政学院大学助教授)	(同上)
	松田 久子 (元理化学研究所非常勤職員)	(同上)
	廣重 (三木) 壽子 (横浜市立大学木原生物学研究所研究員)	(同上)
	三村 恭子 (政策科学研究所客員研究員・COE 研究員)	(同上)
	山崎美和恵 (埼玉大学名誉教授)	(同上)
	山口真輝子 (カリフォルニア大学大学院 ディヴィス校博士候補生)	(同上)
	林 紅 (中国福建社会科学院副研究員・助教授)	(同上)
	河嶋久美子 (オーストラリア国立大学大学院博士 候補生) (平成 18 年 9 月 1 日～ 平成 19 年 2 月 28 日)	
	高橋さきの (翻訳家・COE 研究協力者) (平成 18 年 9 月 1 日～ 平成 19 年 3 月 31 日)	
研究機関研究員	林 奈津子	(平成 18 年 4 月 1 日～ 平成 19 年 3 月 31 日)
研究支援推進員	駒田 明彦	(平成 18 年 4 月 1 日～ 平成 18 年 7 月 31 日)
	飯田 伸彦	(平成 18 年 10 月 16 日～ 平成 19 年 3 月 31 日)
アソシエイト・フェロー	岸野 幸子	(平成 18 年 4 月 1 日～ 平成 19 年 3 月 31 日)
事務局員	花岡ナホミ	(同上)

2. 会議関係

〈運営委員会の開催〉

平成 18 年 4 月 10 日 / 5 月 31 日 / 6 月 28 日 / 8 月 31 日 /
10 月 3 日 / 11 月 1 日 / 11 月 28 日 / 12 月 20 日 / 平成 19
年 2 月 7 日 / 3 月 2 日

3. 研究調査活動

1) センター共同研究プロジェクト

「東アジアにおける植民地的近代とモダンガール」研究

〈国際共同研究〉〈科学研究費基盤研究 A〉

{研究担当}

館 かおる (IGS 教授)

伊藤 るり (IGS 教授)

磯山久美子 (IGS 研究員・東京女子大学他非常勤講師)

板橋 晶子 (本学大学院博士後期課程)

足立真理子 (IGS 助教授)

佐藤バーバラ (成蹊大学教授)

牟田 和恵 (大阪大学教授)

洪 郁如 (明星大学助教授)

小檜山ルイ (東京女子大学教授)

坂元ひろ子 (一橋大学大学院教授)

タニ・バーロウ (ワシントン大学教授)

ヴェラ・マッキー (メルボルン大学 ARC 上級研究員)

戴 錦華 (北京大学教授)

キム・ウンシル (梨花女子大学校准教授)

小山 直子 (IGS 研究協力員・COE 客員研究員)

周 一川 (日本大学助教授)

アンジェリーナ・チン (カリフォルニア大学サンタクルス
校 大学院博士候補生)

ワシントン大学「Modern Girl Around the World」プロジェ
クトメンバー

{研究内容}

本研究は 1920 年代から 30 年代にかけて、日本の都市部
大衆消費文化の形成とともに台頭した「モダンガール」を国
際的社会的現象として捉え、このような現象を支えた思想、教
育、都市文化、政治経済、そして植民地支配の展開を、東
アジアの植民地的近代 (colonial modernity) という問題構
制の下で考察するとともに、モダンガール現象をジェンダー
／セクシュアリティの視点から検討することを目的とした。
2006 年度は、科学研究費補助金の最終年度にあたるため、
研究成果の集約に重点をおいた。最終段階の文献の収集、聞
き取り調査のほか、10 月に韓国・ソウルで、海外研究協力

者も含む研究担当者たちが集結して、研究ワークショップを行った。本研究は、科学研究費補助金基盤研究(A)(1)「東アジアの植民地的近代とモダンガール」(研究代表者 館かおる)の助成を受け、最終報告を行った。

「アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー配置」

〈科学研究費基盤研究A〉

【研究担当】

伊藤 るり (IGS 教授)
 足立真理子 (IGS 助教授)
 浅倉 寛子 (本学大学院博士後期課程)
 落合 絵美 (本学大学院博士後期課程)
 大橋 史恵 (本学大学院博士後期課程、F-GENS COE 研究員 [RA])
 越智 方美 (本学大学院博士後期課程)
 ブレンダ・テネグラ (本学大学院博士後期課程、F-GENS COE 研究員 [RA])
 イシカワ・エウニセ・アケミ (静岡文化芸術大学助教授)
 稲葉奈々子 (茨城大学助教授)
 大石 奈々 (国際基督教大学助教授)
 小ヶ谷千穂 (横浜国立大学助教授、COE 客員研究員)
 定松 文 (恵泉女学園大学助教授)
 安里 和晃 (龍谷大学非常勤講師)
 澤田 佳世 (IGS 非常勤講師・日本学術振興会特別研究員)
 このほか、「国際移動とジェンダー (IMAGE)」研究会メンバー

【研究内容】

再生産領域のグローバル化を、再生産労働の「国際商品」化に留まらず、労働と身体の再生産に食い込む《再生産連鎖》の広がりとして認識し、本プロジェクトでは、アジアにおける再生産領域のグローバル化の実態とその各国におけるジェンダー(再)配置との関連を、社会学、経済学、文化人類学、人口研究等の立場から学際的に把握することを目的とした。

なお、本プロジェクトは、「国際移動とジェンダー (IMAGE)」研究会にとって、2001-2003 年度科学研究費補助金を得て実施した「現代日本社会における国際移民とジェンダー関係の再編に関する研究」に次ぐ、2 回目の共同研究プロジェクトであり、本学 21 世紀 COE プログラム「ジェンダー研究のフロンティア」のサブプロジェクト A2「アジアにおける国際移動とジェンダー配置」と緊密な連携のもとに進めた。なお本研究は、2005 年度から 2008 年度の科学研究費補助金

基盤研究(A)「アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー配置」(研究代表者 伊藤るり)の助成を受けた。

「高齢社会のジェンダー配置と移住ケア労働者——日本とシンガポールの比較研究」

〈二国間交流事業共同研究〉

【研究担当】

伊藤 るり (IGS 教授)
 足立真理子 (IGS 助教授)
 小ヶ谷千穂 (横浜国立大学助教授)
 定松 文 (恵泉女学園大学助教授)
 吉岡なみ子 (本学大学院博士後期課程)
 ブレンダ・ヨー (シンガポール国立大学教授)
 シャリーナ・ファン (シンガポール国立大学助教授)
 ニコーラ・パイパー (シンガポール国立大学リサーチ・フェロー)
 豊田 三佳 (シンガポール国立大学リサーチ・フェロー)

【研究内容】

シンガポールと日本は、アジアにおいて急速に高齢化を遂げつつある社会であり、高齢者ケアをめぐる労働が目まぐるしく注目を浴びている。本共同研究では、こうした両国の共通点を踏まえ、ケア労働が各社会でどのように充当されるのか、とくに(1)移住ケア労働者の導入、そして(2)ジェンダー分業の変化との関係で検討し、両国の政策やジェンダー分業のありようを比較の方法を通じて解明することを目的とした。なお、シンガポールは 1970 年代末から移住家事労働者の導入を政策的に進めてきた国であり、この点で日本と大きく異なる。しかしながら、2004 年 11 月の日比 FTA 大筋合意のなかに、フィリピンからの看護師、介護士の導入が盛り込まれたように、日本においても少子高齢化を背景とした移住ケア労働者の受入が目前の課題として迫っている。こうした変化が、従来のジェンダー分業や女性労働にどのような影響を与えるのか、グローバル化のもとでのジェンダー公正を構想するうえで、シンガポールとの比較研究は重要な意義を検討した。

「アジアにおける女性運動の理論的検討——日韓比較研究——」

〈科学研究費補助金・特別研究員奨励費〉

【研究担当】

伊藤 るり (IGS 教授)
 キーヨン・シン (日本学術振興会外国人特別研究員)

{研究内容}

18年度は2年連続研究プロジェクトの開始年で、主に関連文献収集や資料整理、およびインタビュー調査に取り組んだ。そのために、日本における女性運動の歴史やフェミニズム発展に関する文献、最近の男女共同参画政策を含む女性政策の展開に関する文献収集を行った。さらに、女性運動団体の全国大会やロビー活動に参与観察を行い、同時に男女共同参画センターの活動に対してもインタビューを行った。

「健康／セクシュアリティとジェンダー」に関する研究

【研究担当】

根村 直美 (IGS 研究協力員・日本大学助教授)
佐藤 (佐久間) りか (IGS 研究協力員)
原 ひろ子 (IGS 非常勤講師・城西国際大学大学院客員教授)
中山まき子 (IGS 研究協力員・同志社女子大学教授)
朝倉 京子 (IGS 研究協力員・新潟県立看護大学助教授)
斉藤 正美 (IGS 研究協力員・富山大学非常勤講師)
菅野 摂子 (立教大学大学院)
田中 俊之 (IGS 研究協力員・武蔵大学他非常勤講師)
東 優子 (大阪府立大学助教授)
兵藤 智佳 (早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター客員講師)
藤掛 洋子 (IGS 研究協力員・東京家政学院大学助教授)
その他 健康／セクシュアリティとジェンダー研究会メンバー

{研究内容}

何が正義であるか、何が正しいか、私は何をすべきであるかといった問題に直面するとき、「合意」に根ざした答えを求めるのが、契約論的アプローチである。契約論的アプローチは、実践倫理学におけるフェミニスト的アプローチにも影響を与えてきている。同時に、それらの「合意」の理解について問題がないわけではなく、フェミニズムからの批判的検討も行われてきている。そこで、本研究では、まず、実践倫理学の分野において契約論的なアプローチとフェミニズムとの関連について考察したアリソン・ジャガーの論文“Taking Consent Seriously: Feminist Practical Ethics and Actual Moral” (「合意を真剣に考えるーフェミニスト実践倫理学と現実的な道徳」) を手がかりにして、契約論的アプローチとそのアプローチの影響を受けたフェミニズムが「合意」をどのように捉えてきているかをたどることを試みた。

「医療機器の開発・応用とジェンダー」

【研究担当】

柘植あづみ (IGS 客員教授・COE 事業推進担当者・明治学院大学教授)
小門 穂 (IGS 研究協力員・科学技術文明研究所研究生)
三村 恭子 (IGS 研究協力員・政策科学研究所客員研究員・COE 研究員・本学大学院博士後期課程)

{研究内容}

- 1: 「ジェンダーと科学技術」シラバス構築へ向けては、IGS と COE プログラムの共催で行なわれた、オーストラリア国立大学教授ジュディ・ワイスマン氏の夜間セミナー開催に携わる中で、主に90年代に入るまでの「科学技術とジェンダー」に関わる諸課題や、それらを考察する上で有用とされてきた理論の把握に努めた。また、新しいアプローチについて学ぶと共に、科学技術論の分野でジェンダーの問題を扱っている研究者に関する情報を収集した。
- 2: 産婦人科医療で使われている内診台の機器開発および医療現場での使用に関する聞き取り調査を実施し、そこにどのような視点が内在しているかを共同研究者と共に検討した。

「大学におけるハラスメントの現状と防止策について」

【研究担当】

戒能 民江 (IGS 研究員・本学生活科学部教授)
大理奈穂子 (本学大学院博士前期課程)
上田 智子 (横浜市立大学非常勤講師)
辻 智子 (早稲田大学非常勤講師)

{研究内容}

知の生産の場である大学におけるハラスメント問題の解決をめざして、特に、アカデミック・ハラスメントを中心に、その実態および対応策の解明を通して、ハラスメントを生み出す大学社会の構造のジェンダー分析を行うことを目的とした。セクシュアル・ハラスメントについては極めて不十分ながら、各大学において実態調査が行なわれるようになったが、アカデミック・ハラスメントに関してはほとんど研究の蓄積がない。学生・院生・教職員など大学関係者へのインタビュー調査などを通じて、ハラスメントを生み出す大学の構造について、サブカルチャーを含めて検討した。

「ジェンダー研究情報の提供システムの研究」

【研究担当】

増永 良文 (IGS 研究員・本学理学部教授)

小山 直子 (IGS 研究協力員、F-GENS COE 客員研究員)

館 かおる (IGS 教授)

岸野 幸子 (IGS アソシエイト・フェロー)

{研究内容}

Web 世界におけるジェンダー関連検索サイトのリンク解析を行ない、情報提供システムの研究を深めた。なお、本研究は、「Web コミュニティの動的分析手法を用いたジェンダー研究ポータルサイトの構築」(科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 研究代表者増永良文)と連携して研究成果の公表につとめた。

2) 外国人客員教授関連プロジェクト

「日本におけるフィリピン移住女性労働者のリプロダクティブ・ヘルスの研究」

【研究担当】

キャロリン・ソブリチャ

(フィリピン大学女性学研究センター長)

館 かおる (IGS 教授)

原 ひろ子 (IGS 非常勤講師、城西国際大学大学院客員教授)

林 奈津子 (IGS 研究機関研究員)

駒田 明彦 (IGS 研究支援推進員)

岸野 幸子 (IGS アソシエイト・フェロー)

中山まき子 (IGS 研究協力員、同志社女子大学教授)

熊谷 圭知 (本学文教育学部教授)

杉橋やよい (IGS 専任講師)

{研究内容}

夜間セミナー「女性の人権尊重とジェンダー平等の推進—フィリピン及びアジア諸国の経験から—」を5/10、5/17、5/24、5/31、6/7に開催した。5回のセミナーの演題は、以下のとおり。

1. フィリピンにおける女性運動とフェミニズム研究—収斂と分化の分析—
2. フィリピンとアジア諸国におけるジェンダーに敏感な職業技術教育訓練の推進に果たす JICA フィリピンの役割
3. アジアの HIV/AIDS 現象をめぐるフェミニズム視点からの検討。
4. ジェンダーの主流化—ジェンダーの主流化は、実際に女性の地位向上をもたらしたか?—
5. 女性の地位向上への権利アプローチ—フィリピンの経験から

「テクノロジーの社会形成とジェンダーに関する研究」

【研究担当】

ジュディ・ワイスマン (オーストラリア国立大学社会科学
研究科社会学教授)

館 かおる (IGS 教授)

小川真里子 (三重大学教授)

林 奈津子 (IGS 研究機関研究員)

駒田 明彦 (IGS 研究支援推進員)

岸野 幸子 (IGS アソシエイト・フェロー)

柘植あづみ (明治学院大学部教授)

三村 恭子 (IGS 研究協力員、政策科学研究所客員研究員、
COE 研究員、本学大学院博士後期課程)

水島 希 (COE 研究員、東京大学情報学環交流研究員)

横山 美和 (COE 研究員、本学大学院博士後期課程)

{研究内容}

夜間セミナー「ジェンダーとテクノサイエンス」10/3、10/10、10/17、10/24、11/9に開催

1. ジェンダーとサイエンスのポリティクス
2. 社会によるテクノロジーの形成
3. テクノロジー、仕事、男らしさ
4. コンピューター文化—サイバースペースで生きる方法
5. テクノフェミニズム—ワイヤレス世界の専門知とエージェンシー

「ジェンダー・労働・政治」

【研究担当】

ハイディ・ゴットフリート

(ウェイン州立大学労働社会学准教授)

足立真理子 (IGS 助教授)

市井 礼奈 (IGS 専任講師)

林 奈津子 (IGS 研究機関研究員)

飯田 伸彦 (IGS 研究支援推進員)

岸野 幸子 (IGS アソシエイト・フェロー)

{研究内容}

夜間セミナー「ジェンダー・労働・政治」1/25、2/2、2/8、2/15に開催。

1. イントロダクション—労働のフェミニスト理論
2. 政策、政治と労働—比較研究およびトランスナショナルな研究方法
3. 労働・雇用関連施策とジェンダー(不)平等
4. 経済的自立の確保へ—ジェンダーと非正規雇用に関する日米比較研究

3) 個人研究プロジェクト

「ジェンダー統計視点による男女間所得格差の国際比較研究—「男性稼ぎ主」型を考える—」

【研究担当】

杉橋やよい (IGS 専任講師)

【内容】

本研究の課題は主に、賃金/所得における「男性稼ぎ主」の度合いを、マイクロデータを用い時系列的に分析し、国際比較することであった。この課題に取り組むために、共働き世帯に分析対象を限定し、(a) 男女それぞれの絶対的な所得水準、そして (b) 男女間の賃金/所得格差、(c) 男女それぞれの間での所得格差(所得階層)を分析し、(d) 妻と夫の勤労所得の比較を検討した。もうひとつの課題は、第一の課題と同時に明らかになったことだが、労働統計および家計統計で使われている概念や集計・表示の問題などを、ジェンダー統計視点から、検討し改善案を提示することであった。なお、本研究は、科学研究費補助金若手研究Bの助成を受けた。

「江戸時代のジェンダーの地理学」

【研究担当】

マーシャ・ヨネモト (IGS 客員研究員、コロラド大学ボルダー校准教授)

【内容】

近世の女訓書、旅日記と戯作に現れている「場所」と「空間」につき、人文地理学的、あるいはフェミニスト地理学的な視点から考察することを深めた。なおすでに、4月24日のIGS研究委員会で、「元禄時代の女性用マニュアル本に表れる身体の経営——『女重宝記』の場合」の研究発表を行った。

「女性と選挙に関する研究」

【研究担当】

大海 篤子 (IGS 研究協力員・武蔵大学他非常勤講師)

【内容】

日本では女性と政治のかかわりについての研究はまだ少ない。本研究プロジェクトでは、これまでの女性の選挙に関する資料をまとめ、選挙の執行後、できるだけ早く、情報と分析を英文にて公開できるようにした。

「オーラルヒストリー研究法によるジェンダー・移民・グローバルイゼーション研究——英国在住日本人男女のライフ・

ストーリーを例として」

【研究担当】

酒井 順子 (IGS 研究協力員・エセックス大学歴史学部研究員)

【内容】

- ① オーラル・ヒストリーと女性史の方法論の研究に焦点を当て文献研究をおこない、以下の論文を発表した。「女性史からジェンダー史へ 方法論と史料の多様化」河村貞枝・今井けい編著『イギリス近現代女性史研究入門』青木書店、2006年、315-328頁。「イギリスにおけるオーラル・ヒストリーの展開—個人的ナラティブと主観性を中心に」『日本オーラル・ヒストリー研究』創刊号、2006年、76-97頁。
- ② 第二次世界大戦以後今日に至るまでのイギリスにおけるエスニックコミュニティ全般に関する文献調査をイギリスで行うと同時に、イギリスにおける日本人コミュニティで補足インタビューを行った。

「日本のフェミニズム運動とバックラッシュフレーム、アイデンティティ、日本社会への展望—」

【研究担当】

山口真輝子 (IGS 研究協力員・カリフォルニア大学デイヴィス校大学院博士候補生)

【内容】

本研究は、2006年に日本の草の根フェミニズム・男女平等運動が均等法改正、ジェンダー教育に関し繰り返してきた運動を、フィールドワークと公的資料をもとに分析した。すなわち、フェミニズム運動がどのような男女・ジェンダー平等政策を提言し、その重要性をどのように「説得」しているか、労働と教育の分野に絞って研究した。また、議会議事録や新聞記事の分析をとおして浮かびあがった男女像や男女平等政策にたいする政府や社会の姿勢を、フェミニズム運動が押し出すものと対比して考察した。本研究は、日本のフェミニズム運動をフェミニズムの積み重ねの歴史の一部ととらえながら、他の社会運動との相互関係、そして、国家と市民という、より広い枠組みの中でとらえることを試みた。

「東アジアジェンダー研究ネットワークの形成について—中国の事例を中心に—」

【研究担当】

林 紅 (IGS 研究協力員・中国福建社会科学院副研究員・助教授)

【内容】

女性学、またはジェンダー研究と呼ばれるものは、明らかにさまざまなフェミニズム運動を契機として成立したものであり、その中で形成されてきた研究のネットワークもその例外ではない。本研究の課題は主に次の2点であった。第一に、1980年代後半の中国婦女研究の再出発の時期から、2006年現在「ジェンダーの主流化」として展開にされていく過程と女性学・ジェンダー研究の設立過程を、中国婦女連合会（婦女連）の趣旨との対照、妥協、統合の経緯に注目しながら考察した。第二の課題は、中国の婦女連に従属されて存在すると同時に、固有成り自律した発展を遂げてきた中国の女性学・ジェンダー研究のネットワークを、日本と比べながら、その特徴を明らかにすることであった。この研究課題の検討により、最終的には、日本の研究者との連携で進めていくこととした。

「戦後沖縄の出生力転換と女性たちの交渉—出生力要因のジェンダー分析にむけて—」

【研究担当】

澤田 佳世（IGS 非常勤講師・日本学術振興会特別研究員）

【内容】

本研究の目的は、戦後沖縄の出生力転換とその説明要因について、米軍統治期の人口と生殖をめぐるポリティクスのありようと、生殖の意思決定をめぐる女性の交渉力の拡大プロセスに注目し、沖縄固有の政治・文化・社会経済的文脈と関連付けながらジェンダーの視座に立ち探究することであった。この目的を達成するために、次の3つの研究を並行して進めた。①1950年代・60年代の国際的・地域的文脈を注視しながら、米軍統治下沖縄の「人口問題」、優生保護法と中絶・避妊、家族計画をめぐるポリティクスのありようを、公文書や各種雑誌・新聞・記念誌などの歴史資料と関係者への聞き取りをもとに描き出した。②女性の人生の歴史的变化（とくに、教育・職業・パートナーシップ関係の変化）に焦点をあて、出生力をめぐる意思決定プロセスの変容を考察した。具体的には、3世代にわたる女性の聞き取りと生活史料をライフヒストリーの手法で分析した。③出生力転換に関する統計資料と①②の分析内容を比較検討し、生殖を規定する重層的な権力構造に対する女性の交渉プロセスを詳述しながら、戦後沖縄の出生力転換とその説明要因をジェンダーの視点から解明した。

「ジェンダーと人間の安全保障—平和構築のプロセスにおける女性参画の問題」

【研究担当】

林 奈津子（IGS 研究機関研究員）

【内容】

本研究ではポスト・コンフリクトにおける人間の安全保障の問題について理解を深めるべく、紛争からの回復過程における戦争被災者（特に女性）の社会統合の問題について考察した。親、兄弟、姉妹を戦争で奪われた子供達が自ら銃をとって少年兵となり、愛する子供と夫を殺された女性が生きるすべを失って自らがテロリストとなって自爆の道を選ぶ。この「復讐の連鎖」によって根の深い紛争（Deep-rooted Conflict）になってしまった内戦の解決を促し、また紛争予防と平和構築の強化につながるポスト・コンフリクト戦略のあり方を考えるのが本研究の最大の眼目であった。

4. 21世紀 COE プログラム

「ジェンダー研究のフロンティア—〈女〉〈家族〉〈地域〉〈国家〉のグローバルな再構築—」

【研究担当】◎はリーダー

●プロジェクトA

- ◎戒能 民江（本学生活科学部教授）
- 伊藤 るり（IGS 教授）
- 熊谷 圭知（本学文教育学部教授）
- 足立 真理子（IGS 助教授）

●プロジェクトB

- ◎篠塚 英子（本学文教育学部教授）
- 御船美智子（本学文教育学部教授）
- 永瀬 伸子（本学文教育学部助教授）
- 水野 勲（本学文教育学部助教授）

●プロジェクトC

- ◎館 かおる（IGS 教授）
- 原 ひろ子（IGS 非常勤講師・城西国際大学大学院客員教授）
- 柘植あづみ（IGS 客員教授・明治学院大学教授）
- 小川真理子（IGS 客員教授・三重大学教授）

●プロジェクトD

- ◎竹村 和子（IGS 研究員・本学人間文化研究科教授）
- 天野 知香（本学人間文化研究科助教授）
- 石塚 道子（本学文教育学部教授）
- 菅 聡子（本学人間文化研究科助教授）

●統括研究 ジェンダー研究と〈アジア〉

◎戒能 民江・館 かおる 全事業推進担当者

●間プロジェクト研究事業

A「政策と公正」、B「少子化とエコノミー」、C「身体と医療・科学・技術」、D「理論構築と文化表象」の4プロジェクト編成で研究を進め、〈女〉〈家族〉〈地域〉〈国家〉のグローバルな再構築を行い、より高次の「人間開発」をめざす。また、プロジェクト別の研究のほかに、間プロジェクト研究事業として、(1) ジェンダー平等指標を検討する大規模パネル調査、(2) 近代社会のジェンダー／セクシュアリティに関する文化表象のデータベース作成、(3) 統括研究「ジェンダー研究と〈アジア〉」を進め、プロジェクトを超えた研究の統合を図る。さらに、プロジェクトへの積極的な参画態勢および研究支援体制を整備して、次世代のジェンダー研究教育、男女共同参画社会の担い手の育成を進めている。

— ジェンダー平等指標のパネル調査

御船美智子、永瀬伸子、篠塚英子、水野勲

— 文化表象のデータベース作成

竹村和子、天野知香、石塚道子、菅聡子

— 統括研究 ジェンダー研究と〈アジア〉

戒能民江、館かおる、他

5. 研究交流・社会連携部門

平成18年4月より平成19年3月の間の活動は次の通りである。

1) 研究委員会

平成18年4月24日(月)

各プロジェクトの進捗状況報告、次年度の体制について話し合い

2) 夜間セミナー

①キャロリン・ソブリチャ(フィリピン大学女性学研究センター長)

夜間セミナーを5/10、5/17、5/24、5/31、6/7に開催。

②ジュディ・ワイスマン(オーストラリア国立大学社会科学部研究科社会学教授)

夜間セミナーを10/3、10/10、10/17、10/24、11/9に開催。

③ハイディ・ゴットフリート(ウェイン州立大学労働社会学准教授)

夜間セミナーを1/25、2/2、2/8、2/15に開催。

3) 関連研究会

①「映像表現とジェンダー」研究会

〈コーディネーター〉館かおる(IGS教授)、小林富久子(IGS研究協力員・早稲田大学教授・同大学ジェンダー研究所所長)

〈事務局〉磯山久美子(IGS研究支援員[科研費]・東京女子大学他非常勤講師)、台丸谷美幸(本学研究生)

②「国際移動とジェンダー(IMAGE)」研究会

〈コーディネーター〉伊藤 るり(IGS教授)、足立真理子(IGS助教授)

〈事務局〉浅倉寛子(本学大学院博士後期課程・IGS研究支援員[科研費])、落合絵美(本学大学院博士後期課程・IGS研究支援員[科研費])、大橋史恵(COE研究員、本学大学院博士後期課程)、ブレンダ・レスレション・T・テネグラ(COE研究員、本学大学院博士後期課程)

6. 教育・研修部門

①研究員

澤田佳世(IGS非常勤講師・本学術振興会特別研究員)

キーヨン・シン(日本学術振興会外国人特別研究員)

②学部出講・大学院担当

〈博士後期課程ジェンダー学際研究専攻・ジェンダー論講座〉

ジェンダー史論演習(1)・(2) 館かおる

国際女性開発論演習(1)・(2) 伊藤るり

ジェンダー政治経済学(1)・(2) 足立真理子

〈博士前期課程ジェンダー社会科学専攻・開発・ジェンダー論コース〉

ジェンダー基礎論(前期) 館かおる、他

ジェンダー基礎論演習(後期) 館かおる

開発・ジェンダー論特論(後期) 伊藤るり、館かおる、足立真理子、杉橋やよい、他

ジェンダー社会科学論(前期) 伊藤るり、館かおる、足立真理子、杉橋やよい、他

ジェンダー統計論演習(後期) 杉橋やよい、他

ジェンダー論特別講義(前期) 杉橋やよい、伊藤るり

国際協力論演習(後期集中) 伊藤るり、杉橋やよい、他

ジェンダー社会経済学(後期) 足立真理子

ジェンダー社会経済学演習(後期) 足立真理子

国際移動ジェンダー論(前期) 伊藤るり

国際移動ジェンダー論演習(前期) 伊藤るり

国際社会ジェンダー論(前期集中) キャロリン・ソブリ

チャ、館かおる

国際社会ジェンダー論演習(後期集中) ハイディ・ゴッ

トフリード、足立真理子

〈学部〉

生活科学部共通科目 ジェンダー論（前期） 足立真理子
 〈コア・クラスター ジェンダー系〉
 グローバル化論（前期） 伊藤るり

7. 社会貢献

ジェンダー研究センター

・諸外国/国内の女性関係行政部門、民間団体（NGOの女性問題担当者等）、研究者等の視察受け入れ、日本の男女共同参画等現状等について解説

館 かおる

〈委員〉

・日本学術会議連携会員
 （平成18年10月1日～平成20年9月30日）

伊藤 るり

〈他大学出講〉

・津田塾大学経済学部非常勤講師 「計量経済学」
 （平成18年10月1日～平成19年3月31日）

〈委員〉

・明治学院大学国際平和研究所客員所員
 （平成18年5月1日～平成20年3月31日）
 ・国立女性教育会館研究ジャーナル協力委員
 （平成18年6月7日～平成19年3月31日）
 ・日本学術会議連携会員
 （平成18年10月1日～平成20年9月30日）

足立真理子

〈委員〉

・大阪府立大学人間社会学研究科女性学研究センター学外研究員
 （平成18年7月5日～平成19年3月31日）

杉橋やよい

〈他大学出講〉

・東京農工大学農学教育部・農学部非常勤講師「ジェンダー論」
 （平成18年4月1日～平成18年9月30日）
 ・中央大学大学院非常勤講師「社会組織研究」
 （平成18年4月1日～平成19年3月31日）

8. 文献・資料収集/情報提供/閲覧活動

1) 主要収集資料

国際移動とジェンダーに関する文献・資料/ジェンダーとセクシュアリティに関する文献・資料/開発とジェンダー教育に関する文献・資料/女性と自然科学者に関する文献・資料/リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する文献・資料/アジアの女性政策と開発に関する文献・資料/東アジアの女性政策に関する資料/「東アジアにおける植民地的近代とモダンガール」に関する研究資料など

2) 資料提供

■女性科学者（湯浅年子、辻村みちよ、黒田チカ、保井コノ等）関係の資料
 ■東京女子高等師範学校関係の資料
 ■その他、ジェンダー研究センター刊行物等

3) リファレンスサービス資料及び情報の提供・閲覧・貸出・常設展示

■コピーサービス：常時附属図書館情報サービス・情報システム係で担当
 ■ホームページ（和文・英文）の更新実施
 ■図書以外に関する情報提供

4) 図書・資料寄贈（敬称略）

掲載は、和書：寄贈者名『書名』（著者名）、洋書：寄贈者名書名（イタリック）（著者名）の順とした。
 矢島正見 『戦後日本女装・同性愛研究』（矢島正見編著）、昭和女子大学女性文化研究所 『輝く女性たち：光葉の三五名』（昭和女子大学女性文化研究所編）、長島淳子 『幕藩制社会のジェンダー構造』（長島淳子著）、聖徳大学言語文化研究所 『聖徳大学言語文化研究所論叢』（聖徳大学言語文化研究所編集）、東京大学教育学部附属・高等学校 『創立三十周年記念誌』（東京大学教育学部附属中・高等学校創立三十周年記念誌編集委員会編）、戒能民江 『DV防止とこれからの被害当事者支援』（戒能民江編著）、大学非常勤講師問題会議 『大学危機と非常勤講師運動』（大学非常勤講師問題会議編）、金子幸代 『鷗外女性論集』（森鷗外・金子幸代編・解説）、金子幸代 『鷗外と神奈川』（金子幸代著）、野村育世 『家族史としての女院論』（野村育世著）、安藤香織 『ワーキングママの本音』（安藤香織、伊藤ゆかり、鳥山奈々編著）、河野貴代美 『女性のメンタルヘルスの地平：新たな支援システムとジェンダー心理学』（河野貴代

美編著)、ホーン川嶋瑤子『大学教育とジェンダー：ジェンダーはアメリカの大学をどう変革したか』（ホーン川嶋瑤子著）、至文堂『韓流サブカルチャーと女性』（水田宗子、長谷川啓、北田幸恵編）、城西国際大学ジェンダー・女性学研究所『ジェンダーで読む「韓流」文化の現在』（城西国際大学ジェンダー・女性学研究所編）、東方出版『日本の組織：社縁文化とインフォーマル活動』（中牧弘允、ミッチェル・セジウィック編）、女性の情報をひろげる会『私たちの便利帳』（女性の情報をひろげる会編）、三元社『年下の男：より、はば広い選択の可能性』（ウルズラ・リヒター著；中村昌子訳）、社会思想社『チェルノブイリは女たちを変えた』（マリーナ・ガムバロフ [ほか] 著；グループGAU訳）、学陽書房『女たちの定年：手記と対談と自立の設計』（金谷千都子編著）、三稜会『五十年の歩み』（三稜会編）、横浜市女性協会『女性問題キーワード111』（横浜市女性協会編集）、野村三枝子『働くということ：無償労働をめぐる』（野村三枝子著）、野村三枝子『福島一郎と婦女新聞：明治のフェミニストたち』（野村三枝子著）、『自然は愛しぜんはいのち = Nature is love nature is life』（陣内一土著）、高橋喜久江『希望の光をいつもかかげて：女性の家HELP20年』（女性の家HELP編）、段々社『二十世紀：ある小路にて：ネパール女性作家選』（シャイレンドラ・サーカル、カシナート・タモト編；三枝礼子、寺田鎮子訳）、池内ひろ美『留学生日記：イギリス式高校生活』（池内莉佳子著）、天理大学出版部『戦争と宗教：天理大学おやさと研究所宗教研究会（二〇〇三・二〇〇四年）の記録』（菅浩二 [ほか] 著；天理大学おやさと研究所編集）、Josephine Ho『性工作と現代性』（甯应斌著）、Josephine Ho『身體政治與媒體批判』（甯应斌編著）、Josephine Ho『性政治入門：台湾性運演講集』（何春蕤、丁乃非、甯应斌主讲）、何春蕤『好色女人』（何春蕤著）、何春蕤『性（別研究の新視野：第一屆四性研討會論文集 / 何春蕤編著）、何春蕤『性（別研究の新視野：第一屆四性研討會論文集 / 何春蕤編著）、何春蕤『性工作研究』（何春蕤主編）、何春蕤『跨性別』（何春蕤主編）、何春蕤『性（別政治與主體形構 / 何春蕤編）、何春蕤『從酷兒空間到教育空間』（何春蕤編）、何春蕤『性心情：治療與解放的新性學報告』（何春蕤著）、何春蕤『不同國女人：性（別・資本與文化 / 何春蕤著）、何春蕤『性工作：妓權觀點：專號』（何春蕤總編輯）、何春蕤『酷兒：理論與政治：專號』（何春蕤總編輯）、何春蕤『性侵害性騷擾之性解放：專號』（何春蕤總編輯）、何春蕤『性（別校園：新世代的性別教育 / 何春蕤主筆）、何春蕤『呼喚台灣新女性：《豪爽女人》

誰不爽（何春蕤主編）、何春蕤『豪爽女人：女性主義與性解放』（何春蕤 [著]）、李小江『女性？主義：文化衝突與身份認同』（李小江等著）、李小江『解读女人』（李小江著）、李小江『文学、艺术与性別』（李小江著）、李小江『文化、教育与性別：本土经验与学科建设』（李小江著）、李小江『历史、史学与性別』（李小江著）、河村太美雄『一个日本老兵对侵华战争的反思』（河村太美雄著；屈连璧，丁大等译）、李小江『身临“奇”境：性別、学问、人生』（李小江等著）、李小江『关于女人的答问』（李小江著）、李小江『独立的历程』（李小江主編）、李小江『民族叙事』（李小江主編）、李小江『文化寻踪』（李小江主編）、李小江『亲历战争』（李小江主編）、戴锦华『犹在镜中：戴锦华访谈录』（戴锦华著）、戴锦华『世纪之门』（戴锦华编选）、*동아시아의 근대성과 성의 정치학*（한국여성연구원 편）、*여성의 몸、몸의 문화정치학*（김은실지음）、*성 해방과 성 정치*（조은, 조주현, 김은실 지）、John Clammer *Japan and its others. Globalization, Difference and the Critique of Modernity* (John Clammer), Ilse Lenz, Michiko Mae. *Getrennte Welten, gemeinsame Moderne? : Geschlechterverhältnisse in Japan* (Ilse Lenz, Michiko Mae, (Hrsg.)), International group for the study of women. *Women and Work in Japan (1981-1990): Annotated Bibliography* (editors: International group for the study of women ; Takemi Momoko. [et al.] ; translators: Yoshioka Mary Ellen. [et al.]), 日文研. *The Concept of "Literature" in Japan* (Suzuki Sadami ; translated by Royall Tyler), Frigga Haug. *Beyond Female Masochism : Memory-Work and Politics* (Frigga Haug ; translated by Rodney Livingstone), 館かおる *Failing at Fairness : How America's Schools Cheat Girls* (Myra and David Sadker).